

ふるさとわがまちづくり

広幡町自治区

◆「広幡町」の概要

広幡町自治区は、豊田市街地から国道155号線で北へ、愛知環状鉄道と並行に進んだ大畑町不流（ふりゅう）の信号を右折したところから、広見川沿いにさかのぼること、約4キロメートルにわたる範囲にあります。猿投山の裾野の一角に位置し、水と緑豊かな自然環境に囲まれた山間のまちです。

◆「広幡町」の歴史

広幡町は豊田市北西部にある地域で、昔は現在の広幡町阿賀滝地内に「広見城」（別称：西広見城・広見村古城）が築かれ、1355年ごろ、当時この村を領した「中條将監」が居住したことに始まったとされています。

また、広幡町は河川の名前と同様、江戸期村落のときは「広見村」でした。

江戸時代が終わり、明治5年に「西広見村」となり、明治22年には近隣の八草村、大畑村、篠原村と合わせて4つの村を統合し、「橋見村」になりました。

その後、明治39年、この「橋見村」は「伊保村」と合併して「保見村」



となりました。

昭和の時代になり、戦後の混乱も落ち着き始め、日本の高度経済成長の始まるころ、昭和30年「猿投町」との合併を経て、昭和42年「豊田市」に編入されることになりました。

当時の「猿投町大字西広見」は、豊田市編入に伴い大字は廃止されることになりました。そこで区民がアンケートをとり、区民の総意により「豊田市広幡町」が誕生しました。



八幡社



セイ・シラカシの森



◆ 自治区の年間行事

区民の親睦行事として、盆踊り・秋の大祭・コミュニティ運動会と家族、区民とのふれあいや交流に努めています。

また、環境美化活動として年2回、広見川の雑草の草刈りなど清掃作業を行っています。

◆ 自治区の課題

過疎化・高齢化が進んでいる中、高齢者のみの世帯が増え、自治区内の道路の拡幅整備および自家用車利用に替わる区民の足の確保となる、公共交通機関の乗り入れが急務となっています。



名木指定看板



地域の活性化・世代間交流のため、五平餅づくりを中心に活動をする「広幡なでしこ会」

◆ 自治区の今後の目標

区民が住みなれた自宅や地域で安心して暮らすことができ、生きがいを持って明るく元気で暮らせるまちを目指します。

広幡町自治区データ

(H21.4現在)

設立：昭和42年
世帯数：98世帯
：99世帯（昭和54年）
組数：11組
面積：5.799K㎡
自治区たより：「ひろはた」
回覧：月2回
防犯灯設置箇所：56箇所
小学校：大幡小学校区
自治区会館：広畑町公民館